

以下の記載は、表題の診療ガイドラインから漢方製剤に関する記述を抽出したものです。診療において漢方製剤を使用される場合には、必ず、ガイドライン全体をお読みになり、その位置づけを正しく理解された上で行ってください。

ガイドラインのバージョンは最新のもののみを掲載しています。改定がなされていないガイドラインは、そのまま掲載しています。このガイドラインと其中的漢方の記載を、診療の参考にすべきかどうかの判断は、使用者の責任で行ってください。

気分障害治療ガイドライン 第2版

監修：精神医学講座担当者会議

医学書院、2010年3月15日 第2版第1刷発行

■1 漢方薬

疾患：

うつ病性障害

有効性に関する記載ないしその要約：

その他の代替薬物療法の項に、下記の記載がある。

『薬物療法に抵抗のある患者でも漢方薬だと受容できる場合がある。また、身体症状を主訴とするうつ病患者で有効な場合もある。』